

最年少27歳で初当選。 がむしゃらに走り続けた4年間。

「一部の利益を優先する政治でなく、未来に責任をもった政治の実現を目指し、27歳で政治の世界に挑戦し、最年少で初当選させていただきました。政治家の家系でもなく、特定の団体の支援を受けていないからこそ、しがらみのない中であるべき政治を実現できると信じ、4年間がむしゃらに走り続けてきました。

近年、政治への無関心が叫ばれています。オモテに出てくるのは選挙のときだけで、当選したあとは何をしているかわからない政治家の姿勢こそが問題だと考えています。まずは、政治家から市民のみならず一人ひとりに自分の考えと政策をきちんと伝えるべきです。そうすれば、みんなと一緒に知恵を絞って高槻の未来について考えていけるはずです。これが政治家の本来の務めであり、責任で



はないでしょうか。だからこそ私は、想いと政策を載せた市政報告を通算7号、市内全世帯へ累計100万枚以上自らの足で配布してきました。

この4年間はただひたすら市全体と高槻の未来のことだけを考え、徹底して調査研究し、議会政策提案をし続けてきました。まだまだ「高槻市が良くなった」と胸を張って言える状況ではありませんが、少しずつ成果も見え始めてきています。しかし、人口減少や少子高齢化、近い将来訪れる財政危機など、解決しなければならぬ課題は山積んでいます。高槻で育ち、特定の団体の支援を受けていない、未来に責任のある世代の私だからこそ、実現できる政治があると信じています。

「すべては、あしたの高槻のために。」これからも全力で行動し続けることをお約束します。

未来に責任のある世代だからこそ、 あしたの高槻のために行動し続けます！

竹中健

高槻市議会議員

たけなかけん

31歳・無所属



すべては、あしたの高槻のために。

一部の地域や団体に利益を誘導する政治ではなく、高槻市全体の課題を解決する政治を実現するため、想いと政策を載せた市政報告チラシを通算7号、市内全世帯へ4年間で累計100万枚以上配布。

市政報告8号
(市内全戸配布)

4年間の市議会活動の総まとめ。 実現したい政治。高槻市の課題と政策提案。

高槻市全体の課題を解決する政治
未来に責任をもった政治
客観的な根拠に基づいて決める政治

一部の地域や団体に利益を誘導する政治
子供たちに負担を先送る政治
思い込みや勘で決める政治

私はこのような政治を地元高槻市で実現したいと考えています。
この想いのもとに、私が考える高槻市の課題と
議会での政策提案をまとめた今任期最後の市政報告をお届けします。

プロフィール

1987年7月生まれ(31歳)
2003年：阿武山中学校 卒
2006年：春日丘高校 卒
2010年：立命館大学法学部 卒
2015年：最年少27歳で初当選(現在1期目)
家族/妻と2歳の娘 趣味/読書・サッカー

連絡先

☎ 070-5508-9243
✉ mail@takenakaken.net
🌐 http://takenakaken.net
🏠 〒569-1037 東城山町 2-12-102

潜在的な待機児童の解消

高槻市では、平成26年度から毎年待機児童ゼロを達成しています。しかし「潜在的な待機児童」は、むしろ毎年増加しており、平成29年時点で631人も存在していました。これは、高槻市の基準で保育の利用可能な範囲を市内全域に設定しており、市内のどこかに1枠でも空きがあれば待機児童に数えていないためです。市の独自基準により発生している潜在的な待機児童については待機児童と同様に扱い、この児童たちが入所できるだけの保育所等の整備や空きが多い公立幼稚園の認定こども園化を提案しました。その後、小規模保育事業所の大幅な整備や公立幼稚園の認定こども園化の計画が進んできています。

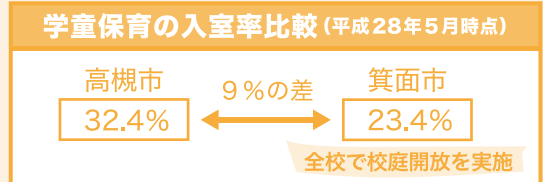
待機児童の状況 (平成29年4月時点)	
申込者数 (A)	6,774人
利用児童数 (B)	6,143人
潜在的な待機児童数 (A-B=C)	631人
待機児童から除外できる児童数 (D)	631人
第一希望のみを希望	133人
臨時保育室等に入所できる	165人
立地条件が登園に無理がない	126人
その他	207人
待機児童数 (C-D)	0人

小学生の居場所づくり (校庭開放事業の実現)

いまの小学生たちは、放課後に友達同士集まり校庭で自由にボール遊びなどができず帰宅させられています。また、どこの公園でもボール遊びは禁止されています。私たちの子供の頃には、当たり前ですぐそこにあったような子供たちだけの主体的で自由な遊び場を確保することが、いまの大人たちの責任だと考えています。

さらに、小学生の居場所の役割を担う学童保育と放課後子ども教室にも大きな課題があります。学童保育は入室率が約32%と高く4年生以上が利用できる状況ではなく、放課後子ども教室は月平均で2日程度しか開設されていません。これでは、小学生の居場所を担えているとは到底言えません。

そこで、私はこれらの課題解決のために、「校庭開放事業」が効果的だと考え、市に対し提案を続けてきました。実際に全校で校庭開放を実施し居場所づくりをしている箕面市では、学童保育の入室率が約23%と高槻市より9%も低いことがわかっています。小学生の居場所づくりを根幹から変えることができる校庭開放事業の実現に向けて、粘り強く提案し続けていきます。



官民格差のある給与制度の是正

公務員の給与は、民間企業の賃金等との比較によって定めることとする『均衡の原則』が法律で定められているにも関わらず、単純労務を行う技能職では、民間の類似業種と比較して給与が高くなっています。技能職の仕事は民間委託が可能であり、わざわざ公務員が行うのであれば、民間給与と同水準まで引き下げることが行政の責務であるため、民間水準に近づける取組を提案。

職種	高槻市職員	民間類似業種	格差
清掃職員	約627万円	約402万円	1.56倍
調理員	約486万円	約374万円	1.30倍
学校用務員	約649万円	約282万円	2.30倍

職務職責に応じた給料体系

職員の給料体系が年功序列になっており、上下の職階どうして給料の大幅な重複があります。その弊害として上司と部下の給料の逆転現象が起きています。これでは、「頑張っても昇格しても責任が増えるだけ」といった空気が広がり、組織の停滞化につながりかねません。責任と処遇の一致する給料表を導入することによる職務職責に応じた給料体系の実現を提案しています。

給料	6等級 (主任級)	5等級 (主査級)
最高月額	386,600円	408,800円
最低月額	250,800円	256,200円
平均月額	330,576円	321,744円

← 一般職 → 管理職

一般職である6等級のほうが、管理職である5等級より平均月額給料が高い。

病児・病後児保育の拡充

病後児保育は4箇所で開催していますが、地域に偏りがあるため市内全域で利用しやすいように拡充を提案。病児保育は当時は未実施であり早期の実施を提案。その後、1箇所で開催が開始されました。居宅訪問型病児保育の検討も要望しています。

BCGの完全個別接種化

乳幼児期の定期接種において、BCG ワクチンのみ個別接種と集団接種が併用されています。個別接種のほうがコストが安くなる傾向があり、接種スケジュールも保護者が組みやすいため、BCGワクチンの完全個別接種化を提案しています。

教員の多忙化の解消

教員が一人ひとりの子供に向き合う時間を確保し、質の高い教育を実現するためには、教員の多忙化を解消する必要があります。そこで、府内の中核市では高槻市だけが導入していない「校務支援システム」の導入を提案しています。

不登校児童支援・いじめ対応

子供を取り巻く問題は複雑かつ多様化しています。これらの問題に丁寧に対応するために、日常生活の指導を行う生徒指導主事を専任で設置するよう提案しています。また、専門家としてのスクールソーシャルワーカーの体制強化も要望しています。

ICT 関連経費の削減

行政のあらゆる分野で情報システムの導入を進めているため、ICT 関連経費の増大が課題です。そこで、効率的・効果的なシステム導入と運用の仕組みなどを提案しました。その後、10年間で約2億円の経費削減を見込める取り組みが始まりました。

行政内部の改革の徹底

これまでは健全財政を続けてきましたが、近い将来財政危機が訪れることが予測されています。行政改革に対する市民の理解を得るためには、まずは行政内部の改革を優先して進めるべきであり、人件費削減や補助金適正化などを提案しています。



私が4年間で提案してきた政策をまとめました。

子供たちに「住み良い街・高槻」を受け継ぐためには、未来への十分な投資と徹底した行財政改革が必要です。

これらの政策実現に向け、引き続き全力で取り組んでまいります。

子育て

教育

行財政改革

医療・福祉

健康寿命の延伸のための介護予防

超高齢社会を迎える中では、何より高齢者の健康づくりが肝になります。介護保険制度では、国民の努力及び義務として介護予防が法律上定義されており、介護予防が非常に重要な取り組みであることは明白です。さらなる介護予防につなげるために、「ますます元気体操」などに取り組む健幸ポイント事業の拡充を提案しています。

がん検診の受診率向上

がんは早期に発見して治療を行えば、より高い確率で改善が可能と言われています。高槻市では、平成27年9月よりがん検診の検診料が無料化されました。一定の受診率の向上にはつながりましたが、無料化の効果をさらに高めるためにも、受診率向上に向けたテラードメッセージ介入といった受診勧奨の方法を提案しています。